

香川大学大学院地域マネジメント研究科
地域マネジメント・ケース・シリーズ
ISSN1881-3224
No.9

粉飾決算の事例と個別財務諸表分析
－(株)カネボウのケース(入門編)－

桑原 正行

e-mail: kuwabara@gsm.kagawa-u.ac.jp

March 2008

Graduate School of Management
Kagawa University
2-1, Saiwai-cho, Takamatsu, Kagawa 760-8523, Japan
<http://www.gsm.kagawa-u.ac.jp/>

粉飾決算の事例と個別財務諸表分析

－（株）カネボウのケース（入門編）－

本ケースの目的：カネボウの財務諸表（貸借対照表と損益計算書）を通じて、企業はどのような粉飾行動（会計処理）を行うのかを理解し、どのような項目（勘定科目）に注目すればよいか、どのような財務諸表分析指標が有効であるかを理解する。なお本ケースは、事前学習用教材と講義用教材の2種類から構成されている。

目次

1. カネボウ粉飾決算の概要
2. 訂正前と訂正後の個別財務諸表の比較
3. 粉飾決算の方法
4. 財務諸表分析の指標

1. カネボウ粉飾決算の概要

カネボウ株式会社（旧：鐘紡株式会社）は明治20年に創設され、明治22年には東京株式取引所へ上場した日本でも有数な大企業の一つであった。同社は、平成13（2001）年3月末時点で連結子会社47社、持分法適用非連結会社7社、持分法適用関連会社8社という関係会社を有し、化粧品・ホームプロダクツ・薬品・ファッション（繊維等）・新素材他の5つの部門から構成されていた。化粧品部門が主力事業であり、同社の売上の50%以上を占めていた。連結財務諸表ベースでは、平成9年3月期は赤字であったが、平成10年以降は黒字計上されていた。ただし、平成12年3月までは純資産額がマイナスであり、いわゆる債務超過状態であった。連結ベースでは、平成8年3月期から平成16年3月期まで9期連続で債務超過となっており、公認会計士らは遅くとも平成11年5月時点で同社が債務超過状態だと明確に認識していたようである。

カネボウ経営陣は、平成17年4月に決算の粉飾が1990年代から行われていたことを認め、平成16年3月期までの過去5期にわたる決算を訂正したが、同社の粉飾総額は2150億円ともいわれている。産業再生機構の支援下で再建中であった時期に、経営陣が記者会見で明らかにした粉飾の手口は大きく分けて3つ挙げられた。ひとつは売上の過大計上と経費の過小計上による利益操作であり、二つ目は不採算関係会社15社を意図的に連結決算から外した損失隠し、そして最後に収益や回収が見込めない在庫（棚卸資産）や投融資の損失の先送りであった。このうち売上と経費の操作による粉飾は約280億円で平成12

年3月期から平成16年3月期に実行された。関係者によると、会計ルール（連結会計）の変更を翌年に控えた平成11年5月にカネボウは同社の財務状態を実際より良く見せる目的で、興洋染織など赤字子会社を連結対象から除外していた。この際、担当公認会計士は連結外しに了承を与えていたうえ、一部の子会社については持株比率を20%未満にする必要があるという専門的な助言もしていたことが明らかにされている。平成14年3月期決算の最終的な取りまとめ作業が行われていた同年4月、カネボウ幹部らは「銀行に対する信用問題もあるので、黒字決算にしないと困る」などと公認会計士らに要請し、中央青山監査法人の公認会計士らは平成13年3月期連結決算で「黒字幅は1億円を超えないように」などとカネボウ旧経営陣に助言していた。これを受け、同期の連結決算は実際には当期純損失が約64億円であったにもかかわらず、7000万円の当期純利益が計上された。

カネボウは産業再生機構の支援を受け、上場廃止し、化粧品部門は株式会社カネボウブティックから株式会社カネボウ化粧品へと商号変更し、平成18年1月には花王株式会社の100%完全子会社となっている。また監査を担当した中央青山監査法人には業務停止命令がなされ、現在同法人は消滅している。

[有価証券報告書総覧における連結経営指標等] (平成13年3月期時点)

(百万円)

	平成9年3月	平成10年3月	平成11年3月	平成12年3月	平成13年3月
売上高	608,292	578,809	537,309	568,369	555,494
経常利益	2,545	5,550	10,597	19,239	23,808
当期純損益	△394	531	1,647	3,102	11,620
純資産額	△23,861	△23,347	△21,366	△11,644	808
総資産額	728,973	704,235	672,633	684,351	712,609

[有価証券報告書総覧における個別経営指標等] (平成13年3月期時点)

(百万円)

	平成9年3月	平成10年3月	平成11年3月	平成12年3月	平成13年3月
売上高	333,609	257,291	248,080	228,129	228,838
経常利益	3,228	7,022	13,162	8,376	15,689
当期純損益	1,268	3,624	8,138	4,627	3,811
純資産額	34,629	38,254	46,392	53,865	56,688
総資産額	489,165	505,794	519,686	509,679	524,877

※有価証券報告書総覧の数値は訂正前のものである。

2. 訂正前と訂正後の個別財務諸表の比較

訂正前と訂正後の損益計算書及び貸借対照表を示すと次頁のようになっており、各訂正前決算書の下に3つの設問を用意している。事前学習用としてこれらの設問に答えなさい。なお、貸借対照表については訂正前と訂正後でそれぞれ見開き2頁となっているので、どちらかをコピーして同時参照できるようにするのが望ましい。

訂正前・個別損益計算書

	H12・3月期	H13・3月期	H14・3月期	H15・3月期	H16・3月期
売上高	228,129	228,838	237,515	233,216	179,305
売上原価	120,427	116,636	118,570	112,764	98,547
販売費及び一般管理費	95,932	93,016	98,435	98,468	89,412
営業利益	11,770	19,185	20,509	21,984	△ 8,654
受取利息及び配当金	4,651	6,956	3,901	5,215	6,926
雑収入	2,438	2,095	1,442	1,357	1,012
支払利息	7,453	8,572	7,784	9,102	10,327
雑損失	3,029	3,975	3,613	4,989	4,717
経常利益	8,376	15,689	14,454	14,464	△ 15,759
固定資産売却益	14	56	2,758	30	—
営業譲渡益	8,147	—	—	—	—
投資有価証券売却益	—	—	59	—	815
厚生年金基金代行部分返上益	—	—	—	—	7,402
固定資産売却損	90	30	168	—	—
投資有価証券売却損	—	—	80	—	139
投資有価証券評価損	—	—	2,918	2,322	3,915
子会社株式評価損	5,333	3,000	7,938	3,208	121,999
出資金評価損	—	—	—	—	632
子会社清算損	—	—	—	388	—
棚卸資産評価損	—	—	—	2,219	140
棚卸資産処分損	—	—	3,799	—	—
貸倒引当金繰入額	—	—	15	1,110	187,481
貸倒損失	—	4,031	—	—	—
子会社支援損失引当金繰入額	—	—	—	—	19,100
債務保証損失引当金繰入額	—	—	—	—	38,047
構造改善費用	2,609	992	1,499	—	75,808
税引前当期純利益	8,505	7,692	852	5,245	△ 454,804
法人税、住民税及び事業税	3,102	7,249	8,927	11,976	458
法人税等調整額	776	△ 3,369	△ 8,175	△ 8,771	△ 68,417
当期純利益	4,627	3,811	100	2,044	△ 386,845
自己株式処分差損	—	—	—	—	0
前期繰越利益	△ 14,330	△ 6,857	△ 3,045	△ 2,944	△ 900
過年度税効果調整額	2,845	—	—	—	—
当期未処分利益	△ 6,857	△ 3,045	△ 2,944	900	△ 387,747

問1) 5期にわたる訂正前と訂正後の損益計算書全体を比較してどのような違いがあるか

問2) 具体的な項目・金額で大きな違いのあるところは何か

問3) 財務分析指標としてどのようなものがあり、どのような分析が有効か

訂正後・個別損益計算書

	H12・3月期	H13・3月期	H14・3月期	H15・3月期	H16・3月期
売上高	224,852	227,877	229,469	224,856	195,189
売上原価	121,563	118,182	120,272	112,514	110,121
販売費及び一般管理費	95,932	91,104	91,749	85,885	86,925
営業利益	7,356	18,590	17,446	26,456	△ 1,857
受取利息及び配当金	4,651	6,956	3,901	5,215	6,926
雑収入	2,438	2,142	1,382	1,546	1,013
支払利息	7,453	8,572	7,784	9,102	10,327
雑損失	3,029	3,702	3,641	5,079	4,648
経常利益	3,962	15,414	11,304	19,036	△ 8,894
固定資産売却益	14	56	2,758	30	—
営業譲渡益	8,147	—	—	—	—
投資有価証券売却益	—	—	59	—	815
貸倒引当金戻入益	—	—	5,152	—	—
債務保証損失引当金戻入益	—	—	754	1,702	—
厚生年金基金代行部分返上益	—	—	—	—	7,402
過年度損益修正損	△ 134,471	—	—	—	—
固定資産売却損	90	30	168	—	—
投資有価証券売却損	—	—	80	—	139
投資有価証券評価損	1,006	2	2,918	2,322	452
子会社株式評価損	14,704	4,517	26,916	17,767	27,650
出資金評価損	—	—	—	—	632
子会社清算損	—	—	—	388	—
棚卸資産評価損	—	—	—	—	—
棚卸資産処分損	—	—	1,192	—	—
貸倒引当金繰入額	19,184	20,608	—	10,286	141,442
貸倒損失	—	4,031	—	—	—
子会社支援損失引当金繰入額	979	702	222	4,498	9,654
債務保証損失引当金繰入額	4,043	600	—	—	10,907
構造改善費用	769	607	1,499	1,330	33,409
税引前当期純利益	△ 163,123	△ 15,628	△ 12,968	△ 15,823	△ 224,963
法人税、住民税及び事業税	3,102	7,249	8,927	11,972	458
法人税等調整額	—	—	—	—	△ 90,801
当期純利益	△ 166,225	△ 22,878	△ 21,895	△ 27,795	△ 134,620
自己株式処分差損	—	—	—	—	0
前期繰越利益	△ 14,330	△ 180,556	△ 203,434	△ 225,329	△ 253,125
過年度税効果調整額	—	—	—	—	—
当期未処分利益	△ 180,556	△ 203,434	△ 225,329	△ 253,125	△ 387,747

訂正前・個別貸借対照表

(単位:百万円)

	H12・3月期	H13・3月期	H14・3月期	H15・3月期	H16・3月期
流動資産	362,541	370,996	367,650	368,975	241,265
当座資産	<u>320,563</u>	<u>321,935</u>	<u>319,777</u>	<u>318,654</u>	<u>215,488</u>
現金および預金	12,867	7,387	3,626	1,234	9,256
受取手形	49,100	59,106	54,503	49,927	9,457
売掛金	37,763	49,943	75,699	73,722	44,425
有価証券	8,937	7	—	—	—
未収入金	27,224	19,748	22,048	17,066	13,959
短期貸付金	180,609	182,435	163,720	184,528	228,133
前払費用	1,322	1,430	1,521	1,395	924
繰延税金資産	1,099	2,701	6,412	12,612	90,801
その他の流動資産	2,638	3,429	3,943	3,787	2,889
貸倒引当金	△ 999	△ 4,256	△ 11,695	△ 25,617	△ 184,356
棚卸資産	<u>41,978</u>	<u>49,061</u>	<u>47,869</u>	<u>50,317</u>	<u>25,772</u>
製品	32,569	38,922	36,819	40,924	20,465
原料	2,927	2,860	2,162	1,868	1,340
仕掛品	2,791	2,883	4,445	3,925	2,311
貯蔵品	3,689	4,395	4,443	3,600	1,656
固定資産	147,137	153,880	183,635	179,259	42,982
有形固定資産	<u>16,917</u>	<u>18,190</u>	<u>21,382</u>	<u>21,511</u>	<u>22,220</u>
建物・構築物	7,169	7,400	8,923	8,932	8,282
機械及び装置	3,849	3,339	4,112	4,135	3,443
工具・器具及び備品ほか	762	717	821	746	1,402
土地	4,712	4,642	7,358	7,481	8,773
建設仮勘定	423	2,090	166	214	317
無形固定資産	<u>615</u>	<u>554</u>	<u>1,023</u>	<u>1,415</u>	<u>1,802</u>
借地権及び電話加入権	207	204	198	197	151
ソフトウェア	389	328	804	1,184	1,541
その他の無形固定資産	18	20	21	34	109
投資等	<u>129,604</u>	<u>135,136</u>	<u>161,229</u>	<u>156,332</u>	<u>18,959</u>
投資有価証券	12,733	16,341	12,529	10,956	9,283
子会社株式	101,601	102,117	126,368	125,477	5,021
出資金	1,929	2,330	1,974	1,974	1,336
長期貸付金	3,817	3,075	4,222	3,280	3,580
長期前払費用	2,675	3,929	4,242	552	440
繰延税金資産	—	—	8,015	10,334	—
その他の投資	7,366	5,305	5,342	5,202	5,665
貸倒引当金	△ 1,489	△ 1,418	△ 1,466	△ 1,446	△ 6,369
資産の部合計	509,679	524,877	551,286	548,235	284,248

問1) 5期にわたる訂正前と訂正後の貸借対照表全体を比較してどのような違いがあるか

問2) 具体的な項目・金額で大きな違いのあるところは何か

(単位:百万円)

	H12・3月期	H13・3月期	H14・3月期	H15・3月期	H16・3月期
流動負債	417,759	407,892	431,888	443,323	579,358
支払手形	61,647	70,129	67,056	44,735	28,937
買掛金	13,060	15,946	15,155	14,086	12,531
短期借入金	266,922	230,890	248,363	280,367	395,401
未払金	33,101	39,110	48,619	41,742	16,751
未払法人税等	3,108	5,619	5,924	7,345	22
未払費用	9,023	9,363	9,118	8,216	9,923
預り金	30,506	36,200	36,371	45,891	48,721
返品調整引当金	213	231	372	616	166
その他の流動負債	175	401	390	321	331
賞与引当金	—	—	—	—	698
子会社支援損失引当金	—	—	—	—	19,100
債務保証損失引当金	—	—	—	—	38,047
構造改善費用引当金	—	—	—	—	8,906
固定負債	38,054	60,296	62,765	45,994	29,865
長期借入金	33,377	55,307	56,551	37,791	22,902
退職給付引当金	※4,230	4,583	5,806	7,851	5,248
繰延税金負債	—	—	—	—	1,389
その他の固定負債	446	405	406	361	324
負債の部合計	455,814	468,188	494,653	489,317	609,404
資本金	31,341	31,341	31,341	31,341	31,341
資本剰余金	14,518	14,518	14,518	14,518	14,518
資本準備金	14,518	14,518	14,518	14,518	14,518
利益剰余金	8,005	11,817	11,918	13,962	△ 372,884
利益準備金	5,042	5,042	5,042	5,042	5,042
任意積立金	9,820	9,820	9,820	9,820	9,820
別途積立金	7,020	7,020	7,020	7,020	7,020
配当引当積立金	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600
特別償却準備金	200	200	200	200	200
当期末処分利益 (当期純利益)	△ 6,857 (4,627)	△ 3,045 (3,811)	△ 2,944 (100)	△ 900 (2,044)	△ 387,747 (△ 386,845)
評価差額金	—	△ 988	△ 1,122	△ 774	2,025
その他有価証券評価差額金	—	△ 988	△ 1,122	△ 774	2,025
自己株式	—	—	△ 23	△ 130	△ 156
資本の部合計	53,865	56,688	56,632	58,917	△ 325,156
負債及び資本の部合計	509,679	524,877	551,286	548,235	284,248

※は退職給与引当金

問3) 財務分析指標としてどのようなものがあり, どのような分析が有効か

訂正後・個別貸借対照表

(単位:百万円)

	H12・3月期	H13・3月期	H14・3月期	H15・3月期	H16・3月期
流動資産	286,759	274,133	271,633	265,831	241,265
当座資産	252,367	234,028			
現金および預金	12,867	7,387	3,626	1,234	9,256
受取手形	49,100	59,106	54,503	49,927	9,457
売掛金	33,042	43,953	60,629	54,333	44,425
有価証券	8,937	7	—	—	—
未収入金	27,224	19,748	21,954	19,002	13,959
短期貸付金	180,609	182,435	163,720	184,528	228,133
前払費用	1,322	1,430	1,521	1,395	924
繰延税金資産	—	—	—	—	90,801
その他の流動資産	2,638	3,429	4,318	4,360	2,889
貸倒引当金	△ 63,376	△ 83,469	△ 78,241	△ 89,339	△ 184,356
棚卸資産	34,391	40,105			
製品	26,788	32,349	31,401	33,533	20,465
原料	2,293	2,226	1,528	1,666	1,340
仕掛品	2,595	2,375	3,594	2,673	2,311
貯蔵品	2,713	3,154	3,075	2,514	1,656
固定資産	81,598	85,158	91,355	70,991	42,982
有形固定資産	16,917	18,190	21,382	21,511	22,220
建物・構築物	7,169	7,400	8,923	8,931	8,282
機械及び装置	3,849	3,339	4,112	4,135	3,443
工具・器具及び備品ほか	762	717	821	746	1,402
土地	4,712	4,642	7,358	7,481	8,773
建設仮勘定	423	2,090	166	214	317
無形固定資産	615	554	1,023	1,415	1,802
借地権及び電話加入権	207	204	198	197	151
ソフトウェア	389	328	804	1,184	1,541
その他の無形固定資産	18	20	21	34	109
投資等	64,065	66,413	68,948	48,064	18,959
投資有価証券	8,292	12,719	8,887	7,327	9,283
子会社株式	43,286	42,284	47,557	32,108	5,021
出資金	1,929	2,330	1,974	1,974	1,336
長期貸付金	3,817	3,075	4,222	3,280	3,580
長期前払費用	2,675	3,929	4,242	431	440
繰延税金資産	—	—	—	—	—
その他の投資	7,366	5,305	5,342	5,202	5,665
貸倒引当金	△ 3,302	△ 3,231	△ 3,279	△ 2,259	△ 6,369
資産の部合計	368,357	359,292	362,988	336,822	284,248

(単位:百万円)

	H12・3月期	H13・3月期	H14・3月期	H15・3月期	H16・3月期
流動負債	450,136	442,592	465,989	483,885	579,358
支払手形	61,647	70,129	67,056	44,735	28,937
買掛金	13,060	15,999	15,300	14,347	12,531
短期借入金	266,922	230,890	248,363	280,367	395,401
未払金	31,658	37,299	45,195	41,260	16,751
未払法人税等	3,108	5,619	5,924	7,345	22
未払費用	9,023	10,699	11,425	10,421	9,923
預り金	30,506	36,200	36,371	46,512	48,721
返品調整引当金	213	231	293	544	166
その他の流動負債	175	401	951	965	331
賞与引当金	—	—	516	—	698
子会社支援損失引当金	4,823	5,525	5,747	10,245	19,100
債務保証損失引当金	28,997	29,547	28,842	27,140	38,047
構造改善費用引当金	—	—	—	—	8,906
固定負債	38,054	60,296	62,765	45,994	29,865
長期借入金	33,377	55,307	56,551	37,791	22,902
退職給付引当金	※4,230	4,583	5,806	7,841	5,248
繰延税金負債	—	—	—	—	1,389
その他の固定負債	446	405	406	361	324
負債の部合計	488,191	502,888	528,754	529,879	609,404
資本金	31,341	31,341	31,341	31,341	31,341
資本剰余金	14,518	14,518	14,518	14,518	14,518
資本準備金	14,518	14,518	14,518	14,518	14,518
利益剰余金	△ 155,874	△ 178,752	△ 200,647	△ 228,443	△ 372,884
利益準備金	5,042	5,042	5,042	5,042	5,042
任意積立金	9,820	9,820	9,820	9,820	9,820
別途積立金	7,020	7,020	7,020	7,020	7,020
配当引当積立金	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600
特別償却準備金	200	200	200	200	200
当期末処分利益 (当期純利益)	△ 180,556 (△ 166,225)	△ 203,434 (△ 22,878)	△ 225,329 (△ 21,895)	△ 253,125 (△ 27,795)	△ 387,747 (△ 386,845)
評価差額金	—	△ 884	△ 1,134	△ 523	2,025
その他有価証券評価差額金	—	△ 884	△ 1,134	△ 523	2,025
自己株式	—	—	△ 23	△ 130	△ 156
資本の部合計	△ 119,833	△ 143,596	△ 165,765	△ 193,056	△ 325,156
負債及び資本の部合計	368,357	359,292	362,988	336,822	284,248

3. 粉飾決算の方法

次の文章の（ ） 蘭に適切な用語を入れなさい。

粉飾決算とは主に架空の利益を計上すること（利益の過大計上）を意味しており、この数値は損益計算書上にあらわれる。利益を少なくする粉飾決算（利益の過小計上）は逆粉飾決算ともよばれ、法人税等の脱税目的のために行われることが多い。粉飾決算は利益の数値を修正するものであるが、その手口として大きく2つにわけられる。ひとつは利益のプラス要因である（ ）を過大計上する方法、もうひとつは利益のマイナス要因である（ ）を過小計上する方法である。

前者において最も典型的に修正される項目は、損益計算書冒頭に表示される売上高である。この売上高を水増し計上する方法にも、①実際には売れていないが帳簿上売れたことにする架空売上の計上、②翌期（決算日の翌月など）に計上すべき売上を前倒し計上するという期間帰属の操作、③買い戻し条件付きや契約段階での計上など、本来の売上ではないものの計上、といった方法がある。カネボウのケースにおいても個別損益計算書の訂正前と訂正後を比べると、平成12年3月期から平成15年3月期にかけて、毎期売上高の過大計上が行われていたということがわかる。この他にも、粉飾とはいわないが当期の利益が少ないあるいは赤字となる場合に、（ ）や（ ）を売却することによって利益を出すという会計処理が行われることがある。最終的な当期利益数値とこの売却益を比較することによって、どの程度最終的な当期利益に影響を与えているか見比べる必要がある。いずれにせよ、この益出しの処理は営業外収益か特別利益の項目にしか計上できないので、本業の儲けを示す（ ）利益数値は必ず注目しなければならない。

一方、後者の費用過小計上においては、販売費・一般管理費に該当するあらゆる項目で過小計上は可能であるが、売上高と対応した売上原価の過小計上も見られる。売上原価の算定は、期首商品棚卸額と（ ）を合算し、その合計額から期末商品棚卸額を減算することによって求められる。期末商品棚卸額は、先入先出法や（ ）といった会社が採用する算定方法によって異なるため、この算定方法を変えることによって売上原価や利益数値も変化する。すなわち、期末商品棚卸額が大きくなると売上原価は小さくなり、売上高との差額である（ ）も大きくなる。ただし、期末商品棚卸額を過大計上するという手法も、実際の在庫を架空に増やすのではなく、評価損・減耗損といった損失を先送りしているという意味での過大計上がほとんどである。カネボウのケースにおいても、売上高と対応して売上原価の数値が平成12年3月期から平成14年3月期にかけて訂正前は過小計上されている。また、棚卸資産の金額においても、訂正後は評価損が計上されて金額が小さくなっているという意味で、訂正前の数値は過大計上されていたということがわかる。

4. 財務諸表分析の指標

次の文章の（ ） 蘭に適当な数字・用語を入れなさい。また[表1]・[表2]の空欄にも金額を記入しなさい。

カネボウは、個別財務諸表の損益計算書において平成12年3月期から平成15年3月期までに合計で売上高を（ア： ）百万円過大計上していた。

仕訳（複式簿記）で考えるならば、

（借方）現金・当座預金・売掛金・受取手形（等）×× （貸方）売上 ××

と処理される。通常架空の売上を計上する場合、すぐに残高が確認できる現金や当座預金、相手先等が記載された手形で粉飾を行うことは難しく、売掛金が使われることが多い。カネボウにおいても売掛金は過大計上されており、平成15年3月期において訂正前と訂正後と比較すると（ ）百万円過大計上されている。断定することはできないが、売上高の過大計上額と売掛金の過大計上額が近い数値であることから、売上の架空計上が売掛金という科目で計上されていたこと、そして、売掛金は架空であるために実際に回収されて金額が減少するものではないために、年度を経るにつれてその金額が増大していったと推測することができる。

この売上高と売上債権（売掛金・受取手形）の関係を示す財務諸表分析の指標として（ ）がある¹。この指標は、売上代金の回収にどれくらいの月数（日数）がかかっているかを見るときに使用する。カネボウの場合に訂正前と訂正後で受取手形の数値は変化していないので、[表2]のように売掛金に限定して数値を求めている。平成12年3月期から平成15年3月期にかけて段階的に数値が（ ）くなっている。つまり、売上代金の回収期間が長くなっていることを意味しており、粉飾決算を売掛金で行うとこの数値が大きくなる。ただし、売上債権の回収が延びているのは取引先側の問題の場合もあるので、必ずしも粉飾を意味するものではないが、相手先が支払不能になれば貸倒損失等が生じるため、いずれにしても注意すべき指標である。

一方、費用の過小計上の例として最もわかりやすいのが売上原価の項目である。売上原価の過小計上額は4期合計で（イ： ）百万円である。前項の3. 粉飾決算の方法でも示したように、売上原価を小さくするために期末商品棚卸額を大きくする方法がある。平成15年3月期において棚卸資産の過大計上額は（ ）百万円である。しかしながら、この金額すべてが売上原価の過小計上に含まれているわけではない。平成12年3月期から平成15年3月期までを一期間（4期分）と仮定すると、訂正前の4期にわたる棚卸資産の増加額は（ウ： ）百万円であり、訂正後における増加額は（エ： ）百万円である。つまり、訂正後においても実際に棚卸資産価額が増大しているため、ウとエの差額である（オ： ）百万円が売上原価の過小計上に用いられて金額と推測す

¹ 通常、受取手形の金額には裏書手形や割引手形の金額も含まれる。これらの数値は注記事項に記載されている。

ることができる。そして平成 15 年 3 月期の棚卸資産の過大計上額（ ）百万円からこの差額（オ： ）百万円を引いた金額は、本来であれば評価損を出さなければならない棚卸資産を帳簿価格(原価)のまま据えておいていたものと考えることができる。

このように、売上高の過大計上と売上原価の過小計上から、売上総利益としては 4 期にわたって（ ）百万円の水増し計上が行われていたといえる。

このほかの分析指標としては、棚卸資産と関連して売上高において何ヵ月分の在庫があるかを表す（ ）があり、これは棚卸資産÷(売上高÷12ヵ月)で求められる。ただし、棚卸資産は将来的には売上原価となるので、売上高ではなく売上原価を 12ヵ月で割る方が理論的には妥当である(カネボウ[表 2]では売上原価で計算している)。いずれにしても、この指標の数値が大きくなっている場合には在庫(棚卸資産)が増えていることを意味するが、厳密には 3 つのどれかに該当すると考えられる。一つめは、架空在庫や水増し在庫の存在であり、オの金額はこれに該当するといえる。二つめは、過剰在庫の存在である。つまり、毎期の売上高・仕入額が同じと仮定するならば単純に売れ残り商品が増えたことを意味する。三つめがデッド・ストック(不良在庫)の存在である。本来であれば、商品評価損を計上しなければならないにもかかわらず、損益計算書上の減益要因あるいは赤字増大となるために、企業が損失を先送りしている場合が考えられる。カネボウの場合も、賞味期限の近いレトルトカレーなど食料品において、取得原価(簿価)の 20%程度の金額でしか他業者に売却できないにもかかわらず、簿価のまま計上して評価損を出していなかった事実が示されている。いずれの場合においても、この指標の数値が増大することはマイナス要因である。一概には言えないが、メーカーの場合は 1.0~2.0ヵ月、卸売りでは 1.0ヵ月が正常といわれている。

売上債権と売上高との関係を表す指標と性質上正反対のものとして、仕入債務と仕入高との関係を示す(支払いの長さを測る)指標が（ ）である。この数値(月)は、仕入債務(買掛金・支払手形)÷(当期仕入高÷12)で求められる。簡略された財務諸表では売上原価の表示はあっても当期仕入高は示されていないが、前期末と当期末の棚卸資産額と売上原価の金額から求めることができる。前期末と当期末で棚卸資産の金額に大幅な変動がない限りは売上原価÷当期仕入高と考えても大きな問題はないだろう²。この数値が大きいと支払いが延びていることを意味するが、そこにはプラスの要因とマイナスの要因の両方があるため注意しなければならない。支払いが延びるということは会社の資金繰りとして余裕を持つことになるが、支払うことができないという状況から数値が大きくなっている場合もあるからである。また、自社だけでなく相手先の状況によってこの数値が変わる場合もある。自社に対する信用不安から資金回収を早めてきた場合、仕入価格の値引きのための現金の支払いへの変更、支払条件の短縮化等の場合にはこの数値は小さ

² [表 2]では、計算簡略化のため当期仕入高ではなく売上原価で計算している。

くなる。この数値の変動の具体的・詳細な要因は、外部の人間が判断することは難しいが、この指標は単独で判断するものではなく、特に代金の受取りと支払い（両回転期間）との関係に注意する必要がある。

[表1] 訂正前と訂正後で相違が見られる主要な勘定科目と金額

(単位:百万円)

	H12・3月期	H13・3月期	H14・3月期	H15・3月期		H16・3月期
①売上高(訂正前)	228,129			233,216	ア	179,305
売上高(訂正後)	224,852			224,856		195,189
差額	3,277			8,360		
②売上原価(訂正前)	120,427			112,764	イ	98,547
売上原価(訂正後)	121,563			112,514		110,121
差額	△1,136			250		
③売掛金(訂正前)	37,763			73,722	ウ	44,425
売掛金(訂正後)	33,042			54,333		44,425
差額	4,721			19,389		
④棚卸資産(訂正前)	41,978			50,317	ウ	25,772
棚卸資産(訂正後)	34,391			40,386	エ	25,772
差額	7,587			9,931	オ	
⑤貸倒引当金(訂正前)	999			25,617	カ	△ 184,356
貸倒引当金(訂正後)	63,376			89,339		△ 184,356
差額	△62,377			△ 63,722		
⑥貸倒引当金(訂正前)	1,489	1,418	1,466	1,446	キ	6,369
貸倒引当金(訂正後)	3,302	3,231	3,279	2,259		6,369
⑦子会社支援損失引当金	4,823	5,525	5,747	10,245	ク	19,100
⑧債務保証損失引当金	28,997	29,547	28,842	27,140		38,047

注意点:⑤は流動資産の部分,⑥は固定資産の部分,⑦と⑧は訂正後の負債数値

[表2] 財務諸表分析指標

	H12・3月期	H13・3月期	H14・3月期	H15・3月期	H16・3月期
売上総利益率(訂正前)	47.2	49.0	50.1	51.6	45.0
売上総利益率(訂正後)	45.9	48.1	47.6	50.0	44.4
経常利益率(訂正後)		6.8	4.9	8.5	-
売掛金回転期間(訂正前)		2.62	3.82		2.97
売掛金回転期間(訂正後)	1.76	2.31	3.17	2.90	2.73
売上債権回転期間(訂正前)		5.72	6.58		3.61
仕入債務回転期間(訂正前)		8.86	8.32	6.26	5.05
仕入債務回転期間(訂正後)	7.37	8.75	8.22	6.30	4.52
棚卸資産回転期間(訂正前)		5.05	4.84		3.14
棚卸資産回転期間(訂正後)		4.07	3.95		2.81
連結・売上債権回転期間	3.16	3.83	4.44	4.30	(訂正前)
	1.92	2.28	2.26	2.06	(訂正後)
連結・棚卸資産回転期間	2.48	2.49	2.73	2.96	(訂正前)
	2.18	2.11	2.30	2.18	(訂正後)